

氏名（本籍）	小林 将太	（大阪府）
学位の種類	博士（教育学）	
学位記番号	博乙第	2962 号
学位授与年月	令和 2 年 4 月 30 日	
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当	
審査研究科	人間総合科学研究科	
学位論文題目	ジャスト・コミュニティ・アプローチによる道德教育の拡充に関する研究 —コールバーグとその後継の理論と実践の展開に着目して—	
主査	筑波大学教授	博士（教育学） 吉田 武男
副査	筑波大学教授	博士（教育学） 唐木 清志
副査	筑波大学准教授	博士（教育学） 田中 マリア
副査	筑波大学助教	博士（教育学） 平井 悠介

論文の内容の要旨

小林将太氏の博士学位論文は、コールバーグ（Kohlberg, L., 1927-1987）が提唱したジャスト・コミュニティ・アプローチ（Just Community approach）について、彼とその後継論者による理論と実践の展開に着目して、その特質と位置づけを解明することで、道德教育における全面主義と授業との関連づけという課題に取り組み、道德教育の拡充を図ることを目的としたものである。その要旨は以下のとおりである。

本論文は、形式的には 6 章構成を取っているが、内容的には第 1 章と第 2 章、第 3 章と第 4 章、第 5 章と第 6 章というように、二つの章が緩やかな一つの括りになって構成されている。

序章では、著者は、問題の所在や研究の目的について論じている。そこでは、まず、晩年のコールバーグによるジャスト・コミュニティの理論的な強化の営為と、彼の実践に現れる諸課題への応答として捉えられる後継の理論と実践について解明することを研究課題とする必要性を示したうえで、先行研究の検討から、研究対象とするジャスト・コミュニティの条件を同定するとともに、その研究課題への取り組みの不十分さを明らかにしている。

第 1 章と第 2 章においては、コールバーグの個人的な活動や考え方が中心に論じられている。特に第 1 章では、著者は、青年期以降一貫して正義の問題を追究したコールバーグが、学校においてジャスト・コミュニティの実践を始めるまでの研究の軌跡について検討し、道德教育のアプローチとしてのジャスト・コミュニティを構築していく経緯を明らかにしている。また第 2 章では、著者は、ジャスト・コミ

コミュニティの基本構造について、コールバーグによる理論構築の過程とクラスター校などの実践に着目することで解明を進め、道徳的雰囲気や唱道者、さらには「心理学者の誤謬」について考察している。

第3章と第4章においては、実践との往還の中で進められた晩年のコールバーグの研究にジャスト・コミュニティの理論的な強化の営為を見出すことによって、主にその道徳教育としての効果や目的に関する検討が加えられている。特に第3章では、著者は、段階理論などをこえてコールバーグの心理学研究を捉えるために、認知発達のアプローチにおける自我発達の理論を取りあげ、その観点からジャスト・コミュニティにおける授業の役割について考察している。また第4章では、著者は、認知発達のアプローチにおける社会化の機軸の解明を試みるとともに、ジャスト・コミュニティにおける社会化の機軸について教師の役割に着目して考察している。

第5章と第6章においては、コールバーグの後継に位置づく理論と実践について考察が進められることによって、主にジャスト・コミュニティの方法に関する解明が行われている。特に第5章では、著者は、学校内学校（School-Within-a-School）でのジャスト・コミュニティ実践とそれを主導したモジャー（Mosher, R. L., 1928-1998）の理論について詳細に検討し、それを手がかりにしてコールバーグのジャスト・コミュニティに現れる諸課題について考察している。また第6章では、著者は、参加民主主義に基づく学校運営とそこでの教師の役割をめぐる課題を念頭に置きつつ、ドイツ語圏でのジャスト・コミュニティの実践とその中心を担うオーザー（Oser, F. K., 1937-）の理論について検討し、ジャスト・コミュニティに現れる諸課題について指摘している。

終章では、著者は、本研究を概括したうえで、ジャスト・コミュニティの特質と位置づけの解明を試みるとともに、そこから明らかになる道徳教育の拡充に向けた課題について考察し、ジャスト・コミュニティは、正義やケアなど社会的に実現されるべき価値を中心に位置づけ、その限りにおいて徳としての道徳的価値に正当性を与えるという価値の捉え方において、道徳的価値の普遍性を主張する人格教育とは一線を画する道徳教育のアプローチであると結論づけている。

審査の結果の要旨

（批評）

小林将太氏の論文は、道徳教育のアプローチとしてのジャスト・コミュニティについて、提唱者である心理学者コールバーグの理論的側面に関するだけでなく、その後継論者による理論と実践の時代的な展開にまで研究の射程を広げながら、その特質と位置づけを解明している点で、一つの教育学研究のあり方として評価できるものである。また、ジャスト・コミュニティ・アプローチの研究に際して、道徳教育における全面主義と授業との関連づけという日本の道徳教育の根源的課題を視野に入れながら、道徳教育の拡充を図ることを目的としている点も、現在の日本の道徳教育学研究としてきわめて高く評価できるものである。

令和2年3月4日、学位論文審査委員会において、審査委員会全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

なお、学力の確認は、人間総合科学研究科学学位論文審査等実施細則第11条を適用し免除とした。

よって、著者は博士（教育学）の学位を受けるに十分な資格を有するものとする。